



問 第一東山踏切の拡幅と県道白山小津線につながる道路の整備を

踏切事故はヒヤリハットも含め、全国的に解決すべき課題であるが、ＪＲ名松線の第一東山踏切は幅員が４メートル未満であるため、緊急自動車が通行するのに十分な幅員となるよう拡幅するとともに、一志地域の東山地区は交通アクセスが限られ、災害発生時に孤立地区となる懸念もあるため、既設道路を県道白山小津線までつなげるなど、道路計画に同地区の課題を反映されたい。

答 既存の道路を丁寧に維持管理し、地域の安全確保に努める

第一東山踏切の幅員は約２．８メートル、一般的な救急車や中型消防車の車幅は約２．５メートルで、それらの車両や災害対応車両が通行することは可能であると認識しており、市が主体となって直ちに拡幅を行う段階には至っていないと考えているが、同地区が災害時に孤立しないよう既存の道路の維持管理を丁寧に行い、安全の確保に努める。

また、第一東山踏切から南進して集落を抜け、県道白山小津線、いわゆるグリーンロードへとつながる避難道路を整備するという、将来的な地域の在り方を見据えた提言については、貴重な意見として受け止める。

その他の質疑・質問

- 災害時における信号機の停電に対する市の取り組みについて
- 災害対応用ＬＰガス非常用発電機の導入状況について
- 一志町波瀬地区および美杉地域における携帯電話の不感地域解消に係る取り組みについて など

ＪＲ名松線の第一東山踏切



問 ＪＲ一身田駅の地域拠点化について問う

ＪＲ一身田駅は、専修寺および寺内町を核とした歴史観光地区の「観光拠点」、にぎわい交流の新たな「地域拠点」、文化資産としての「歴史文化拠点」として十分なポテンシャルを持っている。地域の玄関口として、また地域住民や観光客が集う拠点として、津市の観光・文化・交通部局が連携し、ＪＲ東海と折衝しながら同駅舎の整備と活用を進めるべきではないか。

答 津市および地域の意向を関係機関に伝えていく

ＪＲ一身田駅舎は、建築後１００年を超える趣のある建築物であり、周辺は三重県内で唯一の国宝建造物である御影堂・如来堂がある高田本山専修寺や、環濠・寺院建築・町屋などが残る一身田寺内町の町並みなどを有し、津市景観計画の重点地区に指定されていることから、同駅舎および周辺一帯が、文化的観点からも観光誘客につながるものと考えている。同駅舎の活用については、地域住民からも意見が寄せられていることから、一身田寺内町観光振興懇話会などで地域の意見を聞き取った上で、ＪＲ東海をはじめとする関係機関に対し、津市および地域の意向を伝えていく。

その他の質疑・質問

- 津市農業経営基盤強化資金等利子補給金交付要綱について
- 津市と上富良野町の友好都市提携に係る一身田小学校と同町の小学校との姉妹校提携の可能性について
- 津市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について

ＪＲ一身田駅は築１０３年の津市最古の駅舎であり、観光・文化的価値が高い地域の拠点である

